

東北大学陸上競技部 OB・OG通信

2014年No.3 (2014.7)

-
- ・北海道大学対東北大学定期戦(仙台市陸上競技場)
 - …男子14連勝!!(通算45勝29敗1分)
女子は2位ながらも大健闘!
 - ・宮城県陸上競技選手権大会(ひとめぼれスタジアム)
 - …女子三段跳で渡邊朝美(2)が、女子円盤投で青木千景(2)が部記録更新!
女子4×400mRも部記録を更新!!(4' 09" 73)
 - ・岩手県陸上競技選手権大会(北上総合運動公園北上陸上競技場)
 - …男子200mで宮崎幸辰(2)が岩手県記録を更新!!
-

- | | |
|-----------------------|----------|
| ・北海道大学対東北大学定期戦 | 2～9ページ |
| ・第65回東北地区大学総合体育大会陸上競技 | 10ページ |
| ・宮城県陸上競技選手権大会ほか | 10～11ページ |
| ・七大学OB・OG懇親会のお知らせ | 16ページ |
| ・今後の予定 | 16ページ |
| ・編集後記 | 16ページ |

盛夏の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第75回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第27回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果や、第65回全国七大学陸上競技大会兼第25回全国七大学女子陸上競技大会の展望などをお伝えします。

◎北海道大学対東北大学定期戦 於 仙台市陸上競技場

今年の北海道大学対東北大学定期戦は生憎の雨天の中での開催となりましたが、男子は14連勝を果たし、女子は惜しくも2位となりましたがフィールド部門では点数を上回るなど健闘を見せました。悪天候の中、多くのOBの方々が応援に駆け付けてくださいました。本当にありがとうございました。今後どうぞ温かいご声援をよろしくお願い致します。

★北大戦 結果

男子総合 94点 1位 男子トラック 60点 1位 男子フィールド 34点 2位
女子総合 37点 2位 女子トラック 19点 2位 女子フィールド 18点 1位

☆トラック

男子 100m

1位 宮崎幸辰(2) 10"76 (+1.6)

2位 南共哉(M1) 10"89 (+1.6)

6位 櫻井直輝(2) 11"54 (+1.6)

宮崎は反応が出遅れてのスタートで、中間疾走の区間が以前より短くなってしまい、宮崎にしては今一つであった。しかし貫録の一位でフィニッシュ。

南は反応はいいものの加速区間で遅れをとる。しかし移行区間で最高速に乗り、リラックスした走り後半の失速を最小限に抑える。宮崎に続き2位。念願の10秒台突入である。

櫻井は加速区間でしっかりとなりに食らいつき競るも、中間疾走時に力んでしまい失速。持ち味の前半をうまく使えたものの後半の走りが課題。

女子 100m

5位 吉村梢(1) 13"65 (-0.2)

6位 後藤文子(3) 14"43 (-0.2)

千葉愛理沙(4) DNS

吉村はスタートから加速局面でうまくスピードに乗れたが、後半はスピードに耐え

られず足が流れがちになり走りがまとまらなかった。今回が大学初レースである。今後に期待。

後藤はスタートで周りに離されてしまい、そのまま差を縮めることができずフィニッシュ。スプリント力向上のため、スタートでの力強さが課題となった。

千葉は足の違和感により棄権した。

男子 200m

1位 宮崎幸辰(2) 21"41 (+0.2)

4位 竹原大(3) 23"28 (+0.2)

本間大輔 DQ

宮崎は2レーンということもあり、スタートの加速がいつもよりできていなかった。しかし昨年からの課題であった後半の走りは改善されており、今後に期待である。またも二位に1秒以上差をつけての優勝。

竹原はスタートはうまく決まったがそこから伸びず。直前の400mの疲労かピッチも上がらず、前半の差を巻き返すことはできなかった。

本間はフライングによる一発失格となってしまう。

男子 400m

2位 竹原大(3) 50"41

3位 菅原大志(3) 50"62

5位 杉浦弘樹(4) 52"83

竹原は、風もあったからか今回は前半を抑えつつバックストレートを通過。余力があったのか後半から徐々に周りとの差を詰めていきラスト 100m で菅原と並ぶ。菅原を離し、先頭と差も詰めるものの追い付くことができず二位。またも自己ベスト。

菅原は、外側の北大に前半から離されるも無理せずにバックストレートを通過。コーナーに入ったところで動きを大きくするように切り替え、ホームへ。今回はラストにストライドで攻めていき北大を一人食うも、竹原に競り負け三位。大学ベストを 2 週にわたり更新。

杉浦は内側が攻めていたのもあり、前半からしっかり飛ばしていった。しかし後半になり動きが悪くなり、先頭集団とも差が開く。ラストも苦しそうに走っており、思うような結果ではなかったようである。

女子 400m

2位 加藤かあら(2) 61"35

4位 今川陽絵(1) 64"93

6位 井出桃愛(3) 67"49

加藤は前半の走りを課題としていたが、外の選手についていくことでスピードに乗って前半を通過。後半でもその勢いを保ちつつ粘るも先行する選手に追い付けず 2 位でフィニッシュ。

今川は今回は前半をリラックスして通過することができた。後半勝負のイメージでコーナーをうまく走ることができ大学ベストを更新。まだ 1 年生なので今後に期待。

井出は 800m の後のレースとなり疲れが見えたか前半から流れに乗ることができず。比較的重い足取りではあった。前半で開いてしまった差を巻き返すことができずにフ

イニッシュ。

男子 110mH

3位 工藤知央(3) 15"65 (-0.6)

4位 本間大輔(4) 15"67 (-0.6)

5位 佐藤弘隆(2) 15"98 (-0.6)

スタートが苦手な工藤だが、やはり出遅れる。インターバルとハードリングもうまく繋がらずスピードに乗らぬまま上位に離されフィニッシュ。

本間は一台目から攻めのハードリングで勢いに乗る。その勢いのまま 8 台目まで 3 位をキープするも 10 台目で工藤に並ばれ、その後バランスを崩し、半ばころびかけながらのゴールイン。

佐藤はスピードはある程度出ていたがうまく刻めず、そのまま周りとの差が広がって行ってしまった。本人にしてはしまりのないレースであった。

男子 400mH

1位 千葉優人(4) 53"88

3位 佐藤弘隆(2) 55"64

4位 工藤知央(3) 56"80

千葉は東北 IC と同様に前半から自分のリズムでしっかり走る。3 台目でややよけるものの次の台ではしっかり修正。7,8 台目で少し失速し北大に詰められるものの、ラストでしっかり振り切り優勝。53 秒台を固くマーク。

佐藤は東北 IC と比べスピードに乗れず、リズムで走っていた。課題の 8 台目まで 15 歩で超えられことと 55 秒台に余裕を持って入れたことには満足はしていた。

工藤は前半、体が浮いてしまい、テンポのロスが大きい。後半に入ると前半のスピードを維持できず失速しフィニッシュ。

男子 4×100mR

1位 東北大学 42"56

工藤(3) - 宮崎(2) - 竹原(3) - 千葉(4)

急きよ代役を任された工藤。外側のスタートの火薬がならず、いったん止まるもレースは止まらず。その時の差を埋めるべく必死に食らいつく。最初の差をわずかながら詰め二走に確実にバトンパスした。

アクシデントが重なったものの冷静に柔軟に対応できた宮崎。力むことなく5mはあったろう差をあっという間に追いついた。

僅差でバトンをもらう竹原。北大のバトンミスにより一人で走ることになりやや力んだか後半うまくまとめることができず、やや遠目でアンカーにバトンパス。

うまく加速しバトンをもらう千葉。ややリラックスしテンポを大事に走っているように見受けられた。後半も失速を抑え、最後にやや抜いて一位でフィニッシュ。メンバーの怪我もあり、本来の短短選手が宮崎しか出ていない状況であるので、短短選手の今後の奮起に期待である。

女子 4×100mR

2位 東北大学 52"40

渡邊(2) - 千葉(4) - 吉村(1) - 加藤(2)

一走の渡邊はスタートでやや身体が浮くもののしっかりと加速する。そのまま無難に走り北大を先行していたが、バトンパスで詰まってしまうそこで北大に先行される。

バトンミスで緩めてのスタートを切った千葉。そこからスピードに乗れないまま内側の北大に詰められる。そこからは何とか粘れたものの再度バトンが詰まってしまう。

遅出をしてしまいうまく加速できないままバトンをもらう吉村。そこからは落ち着いて自分の走りができたようであった。しかしスピードが戻っていないのもあり北大とは差を広げてしまった。

若干詰まりながらも確実にバトンをもらう加藤。スタートでやや出遅れる。後半は

安定していたものの、北大に先行され動きが固かった模様。そのまま2位でフィニッシュ。走力もそうであるが、バトンパスも課題となった。

男子 4×400mR

1位 東北大学 3'20"14

佐藤(弘)(2) - 菅原(3) - 佐藤(洋) - 千葉(4)

400mHの直後でもありうまく前半からスピードに乗れなかったが追いつかれてから必死に食らいつき1位と僅差でバトンを渡す弘隆。ラップもバトン計測で49"1台に乗せよい水準であった。

やや遅れてバトンをもらい、前半から攻める大志。オープンレーンになった際に北大を追い越そうとし攻めるも、わずかに越せず並んでコーナーへ。そのまますぐ後ろをつけ、ラストで勝負をかけ北大と一気に差をつけて3走へ。

トップでバトンをもらうと前半から積極的に走り、差を詰める洋介。後半少し差を縮められるも、アンカーの千葉がトップでゴールするのに十分な差を保ちバトンを渡す。

後輩たちがリードを作り、先行してバトンをもらうアンカー千葉優。今回は前半をかなりゆったりと走り、バックストレートで北大にトップを譲る。しかしラストで勝負を仕掛け、結局は大きく差をつけ1着でフィニッシュ。今年は固く勝ちを狙った走りであった。毎年南(M1)、千葉優など4年生以上に大きな負担をかけてきたマイルであるが、今年は三年生以下が調子を上げてきているの。この調子で七大戦も戦ってもらいたい。

男子 800m

3位 宮澤拓也(1) 2'00"61

4位 田中翔悟(2) 2'00"81

6位 佐藤洋介(3) 2'10"83

宮澤は初めての対校戦ということで、絶対に点をとりたいと意気込んで臨んだ。練習時間を十分にとれず、膝に痛みを残したまままでのレースとなったが、得点圏内に入る走りができた。学部生の間に結果が出せるよう、本人は焦らずゆっくりと練習を積んでいきたいそうである。

田中はスタート直後に分かれた2つの集団の後方につき、集団の2番目の位置を保って、ほぼイーブンペースで4着へゴールした。

佐藤は1周目、北大の姫松の後ろに位置をとっていい流れでレースを進めたが、500m過ぎから大失速。大会直前に体調を崩したこともあり十分に調整ができていなかった。力のある選手なので、今後の試合に期待がかかる。

女子 800m

1位 宮間志帆(3) 2'26"03

2位 井出桃愛(3) 2'28"35

4位 塩谷美菜子(3) 2'30"62

宮間は序盤は3番手につき、ラスト1周の手前で先頭に立つ。1周のラップは約69秒。そのままペースが上がる事なく1位でフィニッシュ。得点を稼ぐという最低限の仕事はしたかもしれないが、持ち味の切り替えもなく、終始積極性に欠けた単調なレースとなってしまった。長期にわたる怪我からの復活が待ち遠しい。

井出はスタートから積極的に先頭を走り、途中で抜かれるも、必死で追いかけて2位であった。いつもよりも後半落ちずに、粘りの走りが出ていた。本人もタイムを一気に縮めることができ嬉しかったとっており、距離を伸ばした練習も取り入れてこれからもベスト更新を期待したい。

塩谷は、一周目は集団で71秒で通過するも、残り250mあたりから遅れ始める。最終的に2分30秒62で4着でゴール。高1

以来の800mであったが、また挑戦してほしい。

男子 1500m

1位 西京毅(2) 4'04"26

2位 大野慎也(3) 4'05"91

3位 早坂謙児(2) 4'14"17

雨が強まる中、予定より早く競技が開始されるも信号トラブルにより再スタート。序盤は西京がハイペースでレースを展開。その後、ややペースが落ち早坂が先頭に出た時、ラスト500mで西京がスパート。後から大野が追いかける。しかし西京が追従を許さずそのまま1、2着でフィニッシュ。

早坂は大野の後ろにつき4番手。一周目を63"で通過。700mで先頭の2人に追い付き、そのまま抜かして先頭に立ち2周目通過およそ68"。1000m通過で西京と大野さんに抜かれ少し差がつく。ラスト一周でスパートするも1200mくらいで大野に抜かれあとはズルズル落ちてしまった。ラスト100mは足が動かず北大の選手に抜かれるかと思ったが何とか3位でゴール。1位から3位までを東北大が独占し、七大戦に繋がるいいレースだった。

男子 3000mSC

2位 碓井将也(3) 9'53"05

4位 高橋仙一(2) 10'01"53

5位 南雲信之介(3) 10'08"93

碓井はスタート直後から2番手に位置取る。北大の尾崎が一人飛び出しており、その後ろの集団の先頭で1000mを3'12"で通過。その後集団の後ろの方を離していく中で、北大の選手と2位争い。最後まで前を譲らず逃げ切って2位でフィニッシュした。

高橋はスタート後3台目の障害で躓いてしまい、3位集団についてレースを展開。ラスト1000mからペースを上げたものの2位まで届かず、4位でのゴールとなった。

南雲はスタートから積極的に行こうと思ったものの北大の尾崎が先行し、2位集団に続く配置となった。はじめの1,2周ですぐにそこから離れてしまい、しばらく単独走に。その後高橋に追い抜かれ、しばらく追いかけたものの最後に2周で離され、そのまま5着でゴールした。

女子 3000m

- 1位 鈴木絢子(4) 10'27"83
- 4位 榊原真璃子(3) 11'14"06
- 5位 塩谷美菜子(3) 11'32"38

スタートから先頭に立った鈴木は1000mを3'21"で通過。この時点で後続とはかなり差があり、単独走状態。ところが1000mから2000mの通過はがくんとペースが落ち3'34"。ラストの1000mも3'31と、順位だけ見れば独走での1位であったが、走りには最後まで余裕がなく、鈴木の持ちタイムからしても明らかに不調である。七大戦までには復調してもらいたいところだ。

榊原は大幅にペースを落とすことなく走ることが出来た。また、昨年度のレースより約30秒タイムを縮めることができ、自己ベストであった。3000mのレースの機会はほとんどないが、今回のタイムは5000mの目標タイムを考える上でも大いに参考になったと本人は言っているの、今後も頑張ってもらいたい。

塩谷は1000mについていけず遅れ始める。その後も巻き返すことができず11分32秒38、5着でゴール。体調不良の中での苦しいレースであったが、3000mは塩谷には向いている距離だと思うので、めげずに頑張ってもらいたい。

男子 5000m

- 1位 高橋佳希(3) 15'04"99
- 2位 出口武志(2) 15'06"37
- 3位 本間涼介(2) 15'08"24

高橋は終始本間の後ろについてレースを展開。ゴールが迫ると本間の前に出てトップとなりそのままゴール。本間に引っ張らせてしまったと本人は納得のいかないレースだったようなので、次回からはさらに積極的な走りを見せてくれるだろう。

出口も4000mまでは本間に良いペースで引っ張ってもらった形で安定して走ることが出来た。ラスト1000mでしっかり上げることができず、高橋に抜かれて2位でゴールとなった。

本間は自分から先頭に出てレースを展開し、一定のペースを刻んで走っていた。4000m過ぎまで一人でレースを引っ張ったが、ラストで高橋、出口に抜かれ3位でフィニッシュ。この種目も東北大学が3位までを独占する形となった。

☆フィールド

男子走高跳

- 1位 山田健太郎(4) 1m91
- 2位 岡部大輝(4) 1m88
- 3位 佐藤颯真(2) 1m80

山田は東北インカレのミス修正し1m94は今シーズン一番の跳躍を見せた。しかしその後、些細なミスから集中力が途切れ精彩を欠いた。技術を安定させて記録停滞から脱却を果たして欲しい。

岡部は特殊なタイムテーブルにより走幅跳のピットと行ったり来たりの厳しい状況で1m94を3回目に跳ぶ勝負強さを見せ2位となった。幅、高、三段の3足の草鞋は決して簡単ではないが、怪我に留意して会心の跳躍を期待したい。

佐藤は雨で滑るコンディションに助走を合わせられず、自分の跳躍が出来なかった。次回は曲走を安定させて持ち前のキレのある踏切を見せて欲しい。

女子走高跳

1位 渡邊朝美(2) 1m48

2位 下島千歩(M1) 1m40

4位 千葉愛理沙(4) 1m30

渡邊(3)は力ずくの跳躍であり、技術が不足していた。148で1位であったが、今シーズンまだ150も越えておらず、七大戦でこの種目での得点を落とさないためには練習が不可欠である。

下島(M1)は練習こそほとんどできなかったが、ポテンシャルでカバーした。140はうまく助走を合わせて頂点の合った跳躍であった。2位にはいり院生として今回もしっかり得点を獲得してくれた。

千葉(3)は専門外の種目であるが得点獲得を狙っての出場。130までバーをうまく避けた跳躍を見せ、見事4位に入った。七大戦でも穴場の種目であるため、出場するかもしれない。

男子棒高跳

2位 藤井翼(M2) 4m10

5位 工藤航平(2) 3m50

6位 工藤翼(1) 2m60

藤井(M2)は雨の中円盤と競技が被っていたにも関わらず好調を維持し、自己記録を更新する跳躍を見せ上位入賞を果たす。

工藤(2)は課題であった振り上げの克服は出来なかったが、ポールの反発をもらいなんとか今季初めて記録を残した。

工藤(1)は2回目の棒高跳の試合で前回を上回る記録を残すも、足を痛めてリタイア。しかし今後の大幅な記録更新を期待させるポテンシャルをみせた。

男子走幅跳

2位 岡崎和貴(M1) 6m82(+0.2)

4位 佐藤文哉(2) 6m26(+1.4)

5位 小幡卓哉(2) 6m23(0.0)

多忙な中、十分な調整が積めていないであろう岡崎であったが、スピードを武器と

した鋭い跳躍は健在だった。フェール跳躍こそ多かったが、6m82をマークし堂々の2位入賞であった。院生となった今も尚、エースの貫禄を後輩達へ見せつけた。

佐藤は記録を残した5本の跳躍すべてが6m台に乗り、調子が良さそうに見られたが、一本が出ず6m26で4位であった。

小幡は2本目の跳躍で自己ベストとなる6m23をマークしたが、三段跳の疲労が影響してか、以降記録が安定せず、そのままの記録で5位であった。七大戦に向けて、2年生二人の底上げが急がれる。

女子走幅跳

2位 渡邊朝美(2) 4m96(+1.5)

3位 金子奈緒(4) 4m79(-0.7)

5位 後藤文子(3) 4m45(+0.4)

金子は約二年ぶりとなる試合であった。怪我からの復帰戦とは思えないような跳躍が見られた。記録を残した5本中4本が4m70cm台をマークし、滑り出しに成功した。彼女にとって今年はラストイヤーとなるので記録の更新に期待がかかる。

後藤は100mに出るため前半は試技の間隔がバラバラであったが、助走は安定していた。ただ、記録は伸びず、5位。専門種目としていない北大には勝って得点を上げるくらいの跳躍を行ってほしかった。6本目は良い跳躍が見られたが結果、フェール。上級生の意地を見せてほしいものである。

渡邊にとって走幅跳は、今大会出場している4種目中3種目目にあたる。走高跳の後の跳躍であったためか、ラストのテンポアップが甘く、5m台に届かなかった。助走を磨けば必ず記録が伸びるので、今後の彼女の飛躍が楽しみである。

男子三段跳

2位 須藤海(2) 14m03(+0.1)

4位 岡崎和貴(M1) 13m54(-0.9)

5位 小幡卓哉(2) 13m17 (-0.8)

助走練習のときに大雨が降ったが、試技に入ると小降りになり、コンディションは悪くない状況だった。

須藤は調節不足により前半の跳躍は苦しんだが、後半にようやく助走が乗って行き手拍子の力を借りたが、トップの記録に勝つことはできなかった。技術的にもメンタル的にもまだまだ鍛えなければならないと再認識した試合であった。

男子走幅跳にも出場した岡崎は三段跳の練習が積めていなかったこともありファールに苦しんだが、さすがの自力で13m中盤までのせた。

今季踏切足が合わずに苦戦していた小幡だったが、この試合でついにベストを更新した。踏切足に余裕があり、技術的な面での改善点もあるので、これからの伸びしろに期待である。

男子砲丸投

4位 佐藤雄也(2) 9m76

5位 箕輪純尚(2) 9m60

工藤翼(1) DNS

佐藤は2投目では、テンポを間違えてしまったためにグライドの速さが少し遅くなったが、一連の動作をスムーズに行えたことと砲丸を力いっぱい突き出せたことで記録を伸ばすことができ、自己ベストを更新した。今回の試合でも前から出てファールをしてしまったり、砲丸の投射角度が小さい、砲丸が抜け落ちて指の付け根で押せなかったなどのミスがあり、改善点も見られた。七大戦までの間にフォームを抜本的に改善して、さらに記録を伸ばしてほしい。

箕輪は、1,2投目は体が開いてしまって、力が伝わらなかった。3投目以降はしっかりと体を残して投げることを心掛けた。だが、グライドが小さくなってしまったり、

砲丸が手から落ちてしまったりと納得のいく投擲ができなかった。5投目によくスムーズに投げることができ、9cmだけがベストを更新した。6投目は気持ちが入りすぎてしまい、記録を伸ばすことはできなかった。動きに関しては反省点が多く残ったものの、雨というコンディションの中でもベストを更新できたことはよかった。

女子砲丸投

2位 渡邊朝美(2) 8m36

3位 青木千景(2) 8m11

5位 下島千歩(M1) 7m38

渡邊は、はじめの2本は全く砲丸を押せず、抜けてしまった。3本目でようやく8mを超えるが、その後もグライド動作と投げが全く噛み合わず、6本目にわずかに伸ばした記録で終了。練習での勢いもなかったため、七大戦に向けては、安定した投擲ができるよう練習が必要である。

青木は練習があまり詰めてなかった試合でもあり、最初の1,2投は力が入ってない投擲となった。あまり大きく流れのいいグライドができなかった。その後もあまり伸びなかったが、最終投擲はなんとか力が入った投げになった。最初の3投の中である程度納得ができる投てきができるように練習したい。

下島は一投目に7mを超えたものの回数を重ねるごとに疲労もみられ、記録を伸ばせず結果5位に終わった。雨で身体が冷え、投擲動作のステップから投げへの流れがだんだん悪くなってしまった。また、ステップのところで身体が少し浮いてしまった。

男子円盤投

1位 石川遼(4) 33m16

3位 藤井翼(M2) 29m68

サークルの状態が悪く、スローシューズかランニングシューズかどちらで投げるか

とても迷った石川。練習投擲の1投目はランニングシューズ、2投目はスローシューズで投げた。しかし、サークルの水を掃いた後は、スローシューズでも投げられるが、少したつとランニングシューズの方が投げやすかった。1投目はランニングシューズで投げた。33m16だった。正直、あと5投でもう少し記録を伸ばせられる自信があった。しかし考えすぎて記録は伸びなかった。ランニングシューズで4回、スローシューズで2回投げたが、どちらかに絞ればよかったかもしれない。

藤井は棒高跳と時間が被ってしまったため、1投目に立投げで記録を残した後、2～5投目はパス。棒高跳で自己ベストを更新してサークルに戻ったところ、ギリギリ6投目には間に合った。この時点で石川が1位、藤井は5位だったため、合計の対校得点で北大に負けていた。気合いを入れて臨んだ6投目。雨の影響からか少し円盤がぶれてしまったものの、見事北大の3位の選手を逆転。対校得点を手に入れた。

男子ハンマー投

- 1位 酒井利晃(4) 37m48
- 3位 石川遼(4) 30m44
- 5位 田附遼太(M2) 26m21

酒井の一投目は公式練習の延長のつもりで投げたが、思うように回れず力を抜いて投げた。二投目はそれを踏まえて慎重にターンに入り、サークルのコンディションが悪いにも関わらずうまくハンマーを送り出すことができた。三投目は記録狙いで試技に入ってしまう、力み過ぎたか脚を滑らせて転けてしまった。四投目は転けたことを意識してしまったのかうまく力が入らなかった。五投目には持ち直すことができたが六投目はフィニッシュのタイミングがずれ、ネットに引っかかってしまった。前回の東

北 IC でも二投目でだけ好記録が出ていたので、今回のような記録をいつでも出せるようにしておきたい。

石川はまったく練習してなく、サークルのコンディションもとても悪かったが、思ったより飛んだ。元々完成度が低いターンだったので昨シーズンの感覚を頼りに投げるとどうにかなった。もう少し後ろに軸を持って1回転目から2回転目でしっかりと加速ができるようなターンを目指したい。なんとか3位に入ることができた。

田附1投目～6投目まで、ターンのスピードがなくハンマーに力が伝わらずに記録が全く伸びず、力強い投擲ができなかった。2投目から2ターン目からのスピードを上げることを意識したり、腰の位置を下げることを意識して投擲をしたが、結局十分な修正ができず。1投目～6投目まで同じような記録で終わってしまった。

男子やり投

- 2位 工藤航平(2) 50m18
- 5位 伊藤泰彬(4) 44m82
- 工藤翼(1) DNS

工藤は、雨により他の選手が大幅に記録を落とすなか、修正を重ねながら投げることで普段と同水準の記録を残せた。4投目はやりの軌道や感覚的にはベストを出したとき以上であり、今後の記録更新に期待を持てる投擲となった。

伊藤は雨の中、やりのグリップが濡れてしまい思うような投擲ができなかった。これまでやり投の経験を生かし滑るなりにもどうにか投げられるように試みたが、6投の間に記録を伸ばすことができなかった。本来なら間違いなく55mを超える投擲が出来ていた。次に向けて、しっかりと練習を積んでいってほしい。

◎第 65 回東北地区大学総合体育大会陸上競技 於 弘前市運動公園

第 65 回東北地区大学総合体育大会陸上競技が弘前市運動公園で行われました。日程が詰まっている中でも我が校から多くの選手が出場いたしました。入賞した選手を紹介します。

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 1500m	早坂 謙児(2)	7 位	4'14"47
男子 110mH	本間 大輔(4)	7 位	15"84(+0.9)
男子 400mH	千葉 優人(4)	2 位	53"10
男子 400mH	増田 俊太郎(3)	8 位	57"74
女子 400mH	浅見 恭子(3)	2 位	65"70
女子 5000m	鈴木 絢子(4)	6 位	18'38"03
男子走高跳	山田 健太郎(4)	2 位	1m90
男子走高跳	岡部 大輝(4)	5 位	1m90
女子走幅跳	金子 奈緒(4)	6 位	5m01(+0.3)
男子三段跳	須藤 海(2)	7 位	14m00(+3.0)
女子三段跳	渡邊 朝美(2)	2 位	10m71(+2.3)
女子 4×100mR	渡邊(2)-千葉(4)-吉村(1)-加藤(2)	5 位	51"61

◎宮城県陸上競技選手権大会ほか

7 月 12～13 日にひとめぼれスタジアムで宮城県陸上競技選手権大会が行われ、我が部からは多くの選手が出場・入賞し、ミニ国体の出場権を得た選手も多数いました。

その他の各県で行われた選手権大会でも入賞者が続々と出ておりますので、紹介します。

・宮城県選手権(7/12～13) …ひとめぼれスタジアム…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 200m	南 共哉(M1)	6 位	22"02(+1.3)
男子 400m	南 共哉(M1)	3 位	48"32
男子 800m	佐藤 洋介(3)	7 位	2'05"38
男子 5000m	高橋 佳希(3)	5 位	14'55"26
男子 110mH	佐藤 弘隆(2)	7 位	16"16(-2.4)
男子 3000mSC	南雲 信之介(3)	5 位	9'58"62
男子 4×400mR	阿部(2)-畑岡(4)-佐藤洋(3)-南(M1)	2 位	3'15"25
女子 4×400mR	吉村(1)-加藤(2)-今川(1)-千葉(4)	7 位	4'11"78
男子走高跳	奥 裕之(M1)	8 位	1m86
男子走幅跳	岡崎 和貴(M1)	3 位	6m85(+1.3)
男子三段跳	岡崎 和貴(M1)	5 位	13m89(+2.0)
男子三段跳	田中 悠貴(M1)	6 位	13m84(+3.3)
女子三段跳	渡邊 朝美(2)	2 位	★11m09(+1.7)
女子円盤投	青木 千景(2)	5 位	★31m43

・岩手県選手権(6/27~29) …北上総合運動公園北上陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 200m	宮崎 幸辰(2)	1位	★21"11(+1.1)

・山形県選手権(7/11~13) …ND ソフトスタジアム山形…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 110mH	工藤 知央(3)	5位	15"04(+0.9)
	渋谷 知暉(M2)	6位	15"19(+0.9)
男子 400mH	千葉 優人(4)	1位	53"16
	工藤 知央(3)	4位	55"57
男子 1500m	西京 毅(2)	4位	4'02"26
男子 3000mSC	菅野 均(M2)	3位	9'38"40
	本間 涼介(2)	4位	9'44"77
男子三段跳	須藤 海(2)	3位	14m29

・青森県選手権(7/11~13) …むつ運動公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子走高跳	山田 健太郎(4)	1位	1m97

・新潟県選手権(7/11~13) …新潟市陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子走高跳	岡部 大輝(4)	4位	1m95

◎七大戦の展望 in 2014

いよいよ待ちに待った七大戦の季節がやってきました。今年の会場は京都府の西京極陸上競技場です。男女共に総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

主将、女子主将による OB の皆さんへ向けた意気込みと、今年のそれぞれの種目の出場メンバー(変更の可能性あり)、また各 PC の視点から見た七大戦の展望を掲載致します。

◆主将の意気込み …伊藤泰彬…

今年も七大戦の季節となりました。チームの中でも七大戦の話題が必然的に増え気分の高まりを感じる事が多くなってきました。今年度の男子は目標としていた東北インカレで総合2位となり、この勢いを持って七大戦に臨んでいきたいと思えます。

チームの状況としては、各種目のエースが得点を計算できるものの、他大学のレベルも全体的に上がり2番手、3番手の層がやや見劣りする種目があるというのが現状です。しかし、全員がこんなに盛り上がる大会はこの七大戦以外にはないと感じており、あの空気感の中での試合は非常に気分が高まり、自分が持つ力以上の結果を残せる大会、何が起こるか分からない大会であるとも思えます。今年をあえて七大戦を目標としては掲げずに取り組んできて正直どこまでチームが盛り上がっていくかは分かりません。それでもチームとして勝ちたい大会であり、勝たせたい大会であることには変わらないと考えています。エネルギーな一年生の勢い、競技力の高いメンバーが多く充実している二年生の力強さ、幹部学年として役職を務め、また PC として各パートを引っ張った三年生の責任感とノリ、そして何より四年生の意地、とそれぞれがそれぞれの役割を果たし競技に臨むことで自然と結果はついてくると思えます。

今年の京都も非常に暑いことが予想されますが、暑さに負けず、それ以上に熱い試合を目指して部員一丸となって全力で競技したいと思えますので、OB・OGの皆様、熱い応援をどうかよろしくお願い致します。

◆女子主将の意気込み …鈴木絢子…

こんにちは、女子主将を務めております鈴木絢子です。七大戦まで残りわずかととなりました。昨年は優勝校であった名古屋大学と得点数では同点だったものの、優勝数の差に敗れ優勝を逃し、悔し涙を流しました。「来年こそは」と全員が強く決意したあの日から、もうすぐ1年が経とうとしています。月日が過ぎるのは実に早いと思わずにいられません。

今年の目標はもちろん優勝です。しかし、目標達成は非常に厳しいのが現実です。この1年の間に、他大学も着実に実力を伸ばしてきました。特に、女子短距離などは過去に例のないほどレベルの高い年となることが予想されています。

1点2点の差が総合順位を大きく左右する七大戦です。得点圏内ギリギリ、と予想される選手が確実に点数を取っていかない限り、今大会の優勝はあり得ません。幸いにして、女子チームの調子は今、全体的に上昇傾向にあります。当日、全員が自分の実力を100%出し切れれば、必ず優勝は見えてきます。

選手の100%の力を引き出す原動力は、共に練習してきたチームの仲間に対する思いです。必ずしも全員が正選手になることは出来ませんが、チームの仲間との練習の日々やサポート、応援が選手を後押しして初めて、チームとしての実力が発揮されます。チームの

結束力をより強固なものにし、大会当日を迎えたいと思います。

最後になりますが、いつも私たちを支えてくださる監督、コーチ、そして惜しみない声援をくださる OB・OG の皆様には日々感謝の気持ちでいっぱいです。七大戦では 2 日間、チーム一丸となって頑張りますので、応援の程どうかよろしく願いいたします。

◆短距離パートの展望

・男子 100m

大会記録更新の期待がかかる宮崎！！春先好調の阿部とのダブル決勝は濃厚か。留まることの知らない櫻井の勢いにも注目！

・男子 200m

霸王宮崎に死角なし！他をどれ程圧倒できるか？！阿部、ルーキー川上があとを追う。複数人決勝も期待がかかる。100m200m ともにヤングである。

・男子 400m

竹原、菅原、畑岡、誰もがいつ 50 秒を切ってもおかしくない。誰がそこから抜き出せるか。いや、全員決勝を！！

・男子 400mR

優勝、部記録更新はできるか？！今年からオーバーに戻し、攻めのバトンで関西の 2 大学へ焦点を！若き 2 年生エース達の活躍に期待！

・男子 1600mR

千葉、畑岡を筆頭に数多くのマイラーが控えている今年のロングチーム。今季勢いに乗ってる 2,3 年生の走りにも注目！！無論狙うは二連覇！

・女子 100m

ラストイヤー千葉、西京極で有終の美を飾れるか？！12 秒台ルーキー吉村の七大デビュー。二人の自己ベスト&決勝進出に大きな期待。

・女子 400m

遅れてきた新エース加藤。表彰台はもちろん、優勝も狙える？！59 秒台ルーキー今川の決勝進出にも期待がかかる。

・女子 400mR

去年の躍進から 1 年。バトンパスで他を

リードできるか？！100m の両選手を中心に、今年も表彰台&部記録更新に期待がかかる！！

◆ハードルパートの展望

・110mH、400mH

110mH には、今季走るごとに自己ベストを更新している本間、部記録に王手をかけた工藤(知)、調子を上げてきている佐藤(弘)が出場する。400mh には、安定して高い水準をマークする 2 連覇中の千葉、昨年度 3 位で千葉を追う工藤(知)、大きく自己ベストを更新し今季ベストは工藤を凌ぐ佐藤(弘)が出場する。両種目ともに七大史上歴史的にハイレベルな争いだが十二分に戦える選手が揃っている。大量得点を実現したい。

◆中距離パートの展望

・800m

800m は、佐藤が六位以内を目指します。田中は、一分台を目指します。もう一人は、一年生で、宮澤か渡邊、どちらが走るか分かりません。いずれにせよ、未知数なので、チームに良い流れをもたらす走りを期待します。

・1500m

1500m は大野と西京が、三分台を伺いながら、六位入賞を目指します。早坂は四分十秒切りを目指します。

年々レベルの上がる七大中距離において、得点を取るのは非常に困難です。当日までにコンディションを整え、両種目共に番狂わせを狙います。

◆長距離パートの展望

○男子

・5000m

例年、東北地区の大会よりも高いレベルで繰り上げられる 5000m。

他大学も実力のある選手が多々いる中で、かつ、今年も真夏の京都開催ということでかなり過酷なレースが予想されます。ですが、昨年全日本大学駅伝が終わった後から、距離を踏む練習を多く取り入れ徹底して走り込みをしてきました。最近も練習量を増やしているため疲労も気になりますが、その中でどれだけ走れるか、といった感じで、本番ではその時自分に出来る精一杯の走りをしていくというのが第一の目標です。

得点に関しては正直よくわかりませんが、昨年よりは強い3人がみれると思います。

・3000mSC

なにより最初のトラック種目なのでチームの流れをつくるため、とても重要なレースになります。

昨年まではその重要な役目を果たしてくれる先輩方がいましたが、今年はその先輩方が抜けてしまったということで、その代わりとなる選手が求められます。

現段階ではそれ相応の力があると記録として証明できている人はいませんが、着実に力はつけてきているので、本番でも練習で積み上げてきたものを活かして、かつ上位目指して走ってきます。

○女子

・800m

800m は他大学と実力が拮抗しており、混戦が見込まれる。県選で好記録を出した鈴木(絢)を軸に複数得点を狙う。

・3000m

女子 3000m は名大の鈴木さん等が抜け、全体の水準が下がることが予想される。2人で得点を稼げるだけ稼ぐことを期待した

い。

◆跳躍パートの展望

○男子

・走高跳

跳躍パートの大黒柱、高跳びコンビの山田(4)、岡部(4)も今回が最後の七大戦となる。今季徐々に調子を上げていっているので本番では2mを超えて表彰台に上ってほしい。また、佐藤(颯)(2)も190cmを超えれば得点が十分見えてくる。三人の跳躍には期待したい。

・走幅跳

男子走幅跳は昨年に引き続き、今年もハイレベルな戦いが広げられるであろう。岡部(4)には7m超えのビックジャンプによる上位争いが予想される。また七大本戦初出場となる佐藤(文)(2)、佐藤(勝)(1)の跳躍にも注目したい。

・三段跳

14m後半跳ばなければ入賞できないと予想される三段跳びも近年稀にみるハイレベルな戦いとなりそうだ。今季14m45のPBを出した須藤(2)、14m10のPBをもつ岡部の入賞に期待がかかる。また跳躍に転向し着実にレベルアップしている小幡(2)の13m超えの跳躍も楽しみだ。

・棒高跳

今季けがに悩まされたが、ようやく回復し、調子を上げていっている高橋(2)にはこの種目での二連覇が期待される。また昨年から大幅に記録を伸ばしている工藤(2)の4mのジャンプ、デカスロン・ルーキー工藤(1)の跳躍も注目である。

○女子

・走高跳

去年よりさらに勢いをつけたある渡邊(2)にはこの種目での二連覇が期待される。また後藤(3)はこの走高跳初出場となるが、上級生の意地を見せて得点をもぎ取ってき

てほしい。

・走幅跳

去年3位であった渡邊(2)は走高跳に
らび、この種目でも優勝できる位置に
るので、二冠に期待がかかる。また金子(4)は
怪我から復帰し、5m01のUBも更新して
いる。二人で表彰台に上がる姿が楽しみだ。

◆投擲パートの展望

○男子

・男子砲丸投

佐藤雄也(2) 箕輪純尚(2) 工藤翼(1)

なかなか得点が厳しそうな種目であるが、
まだまだ若い3人の伸びに期待したい。箕
輪は今年10m01をマークしており、10m
30を超える投てきができれば得点が狙え
る。

・男子円盤投

石川遼(4) 佐藤雄也(2) 工藤翼(1)

去年に引き続き、石川は得点が狙える。1
年生の工藤翼はパワー溢れる投てきで期待
ができる。表彰台ラインは34m00。得点ラ
インは32mと予想される。

◎自己ベスト更新者一覧(5/31~7/13)

・男子100m

南共哉(M1) 10"89(+1.6)(北大戦)

・男子200m

竹原大(3) 23"09(+1.2)(東北総体)

宮崎幸辰(2) 21"11(+1.1)(岩手県選)

・男子400m

竹原大(3) 50"41(北大戦)

・男子110mH

本間大輔(4) 15"59(+0.8)(東北総体)

工藤知央(3) 15"04(+0.9)(山形県選)

・男子800m

佐藤洋介(3) 1'54"77(宮城県選)

・女子800m

榊原真璃子(3) 2'34"09(日体大記録会)

・女子3000m

・男子ハンマー投

酒井利晃(4) 石川遼(4) 箕輪純尚(2)

4月から記録を伸ばし38m93をマークし
ている酒井は表彰台が狙える。40mを超え
る投てきが期待できる。表彰台ラインは
40m、得点ラインは35mと予想される。

・男子やり投

伊藤泰彬(4) 工藤航平(2) 工藤翼(1)

伊藤は2年連続3位の実績があり、今年
も怪我で遅れているがしっかり七大戦にあ
わせており得点を狙える投てきに期待した
い。工藤航平は去年から着実に記録を伸ば
しており、得点が期待できる。表彰台ライ
ンが61m。得点ラインは54m50。

○女子

・女子砲丸投

青木千景(2) 渡邊朝美(2)

渡邊は去年3位に入っており、今年も大
いに期待できる。青木は先日の宮城県選の
円盤投で部記録を更新し、コンディション
は好調である。2人とも表彰台が狙える。

榊原真璃子(3) 11'14"06(北大戦)

・男子5000m

本田雄生(2) 16'15"73(長距離記録会)

藤原啓(1) 16'47"37(北医体)

・女子5000m

榊原真璃子(3) 19'08"39(東北総体)

・女子三段跳

渡邊朝美(2) 11m09(+1.7)(宮城県選)

・男子砲丸投

箕輪純尚(2) 10m01(仙台大記録会)

工藤翼(1) 9m91(北医体)

・男子円盤投

工藤翼(1) 26m65(北医体)

・男子やり投

工藤翼(1) 48m37(北医体)

◎七大学 OB・OG 懇親会のお知らせ

今年の七大会は京都大学主催（西京極競技場）のもと 8 月 9 日（土）にオープン戦、10 日（日）に本戦の日程で開催されます。

また、例年どおりオープン戦の終わった後に、懇親会が下記の日程で開催されますので、皆様、奮ってご参加いただきますよう宜しくお願いいたします。

【七大学 OB・OG 懇親会】

日時：2014 年 8 月 9 日（土）18 時より

会場：ホテル京阪京都 <http://www.hotelkeihan-kyoto.com/>

〒601-8003 京都市南区東九条西山王町 3 1

TEL (075) 661-0321 / FAX (075)661-0987

JR 京都駅南口（新幹線口）向(南東)側

会費：6,000 円

参加ご希望の方は、下記の書式で吉田宛にご連絡ください。

記載事項：氏名・卒業年・種目

連絡先：masato@riec.tohoku.ac.jp（吉田宛て）

◎今後の予定

- | | | |
|--------------|--------|----------------------|
| ・8 月 9～10 日 | 七大会 | …西京極陸上競技場（京都） |
| ・8 月 12～13 日 | 北日本 IC | …新潟市陸上競技場 |
| ・8 月 30～31 日 | 東北選手権 | …（福島県） |
| ・9 月 5～7 日 | 全日本 IC | …熊谷スポーツ文化公園陸上競技場（埼玉） |

◎編集後記

北大戦、国体予選が終わり、次はいよいよ七大会です。北大戦以降も記録の更新が続き、特に女子に関しては部記録更新が多く見られました。正選手に選ばれた方々は 1 点でも多く点数を取ってこられるよう、今から調整に余念がありません。真夏の競技場を更に熱くさせるような選手の活躍が、今から楽しみです。OB の皆様も東北大学にたくさんのご声援を、よろしく宜しくお願いいたします。

文責 副務 熊谷翔子

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp